

善光寺地震

災害の概要：

発生日時：1847年5月8日

(弘化四年三月二十四日) 夜十時頃

規模：マグニチュード7.3～7.4程度

発生場所：長野盆地の西側

地震の種類：活断層に発生した浅い大地震

死者数：8千～1万数千人

全壊及び焼失家屋：2万戸程度

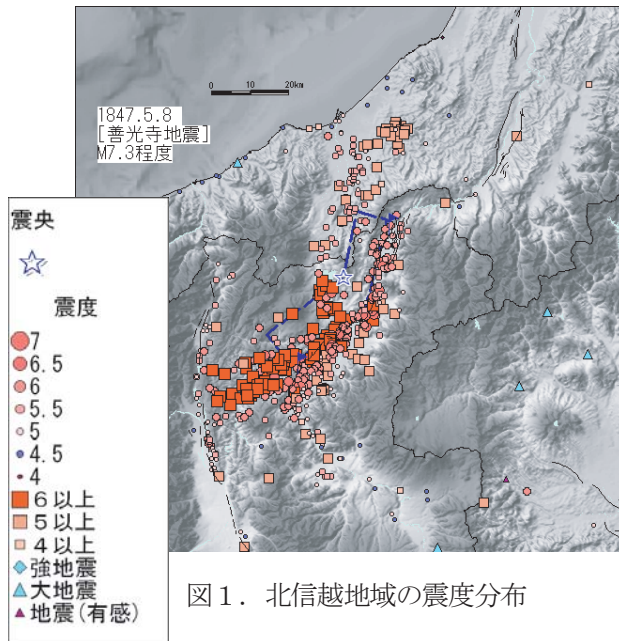


図1. 北信越地域の震度分布

さらに、雪解け水によって水量豊富な川が、一旦崩れた土砂で塞き止められ、3週間ほど湛水したあと塞き止め箇所が崩壊して下流で大洪水を起こしたので、この地震の犠牲者は「火葬にされ土葬にされ水葬にされた」と言われたのでした。

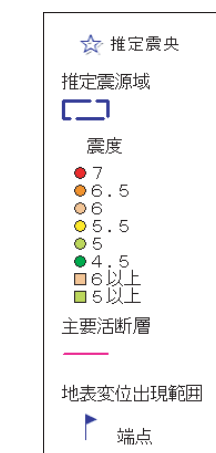


写真1. 善光寺本堂正面左手の鐘

この鐘が善光寺地震の際に外れて飛び、左下の柱に疵をつけた。現在でも疵が判る。

善光寺地震は今から161年前に、田植え前の早春の北信濃、現在の飯山市から中野市、長野市、千曲市、池田町あたりまでに大きい被害を及ぼした地震です。

長野盆地西縁断層帯に発生した逆断層の地震で、盆地西側の山地が、千曲川が流れる低地に乗り上げるように2-3m隆起しました。盆地の低地側では強い揺れによる家屋倒壊と、それに続く火災の被害が、中山間部では大小多数の土砂崩れによる被害がめだちました。丁度善光寺の御開帳に訪れていた旅行者も、不慣れた旅先で圧死や焼死して、犠牲となったのが数千人とも言われています。

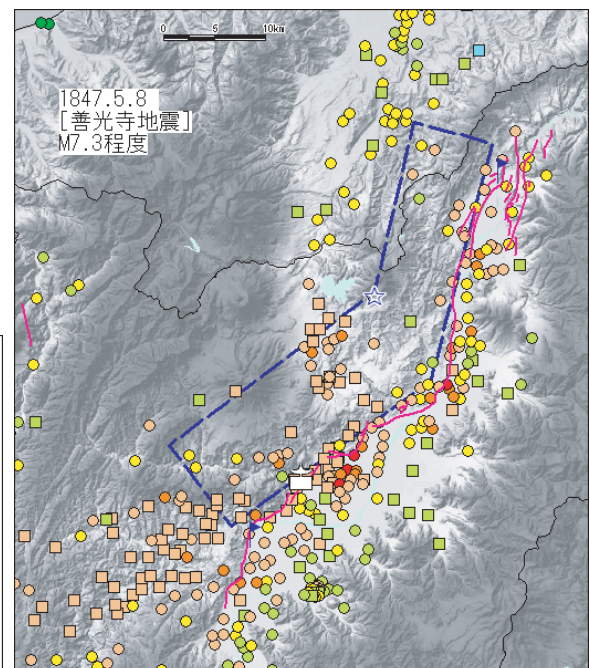


図2. 善光寺（白印）周辺など長野付近の震度分布と推定震源域や周囲の活断層